



実施計画資料

2025年

アジェンダ

-
1. 本アクションの位置づけ
 2. 計画の導出に資するこれまでの施策や調査の結果
 3. 将来的な目指す姿の達成に向けた進め方
-

1.本アクションの位置づけ

若者流出が課題である中、スポーツライミングを一つのコンテンツとしたまちの活性化・若者の誘因を目指し、昨年度に「スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想」を策定しました

本市の目指す姿・課題

龍ヶ崎市が目指す姿

- ✓ 2022年12月に、最上位計画「龍ヶ崎みらい創造ビジョン for2030」を策定し、本市のあるべき姿として「**Creation -ともに創るまち・龍ヶ崎-**」を掲げています
- ✓ その中で、本市が抱える課題への的確な対応や、「住み続けたいまち」の構築に向けて、特に重要となる施策を「未来」「魅力」「幸せ」の3つのリーディングプロジェクトとして位置付け、「若者世代の定住促進」や「誰もが楽しめるスポーツ社会の実現」などの施策について、重点的かつ優先的に取組を進めています

課題

- ✓ 人口減少、特に若者の流出が顕著な状況となっており、**大学卒業や就職を機に、特に20代の流出が大きく、直近の令和5年度では、年間200人以上の転出超過**の状況となっています
- ✓ 市街地における人口の空洞化や空地・空家の発生といった「**都市のスポンジ化**」が懸念されており、**人口減少社会に対応した都市構造への転換**が求められています

人口減少社会を受けての若者を呼び込む本市の取り組み

若者を呼び込む取り組み

- ✓ 若者や子育て世代を対象とした移住支援金の交付など**経済的な支援**に取り組んでいます
- ✓ 森林公園のリニューアルや保健福祉棟多世代交流センターの整備など**若者に響く魅力アップ**が進んでいます
- ✓ プロスポーツチームや流通経済大学との連携など、トップアスリートを含めた**高いレベルのスポーツに触れる環境**が整っています

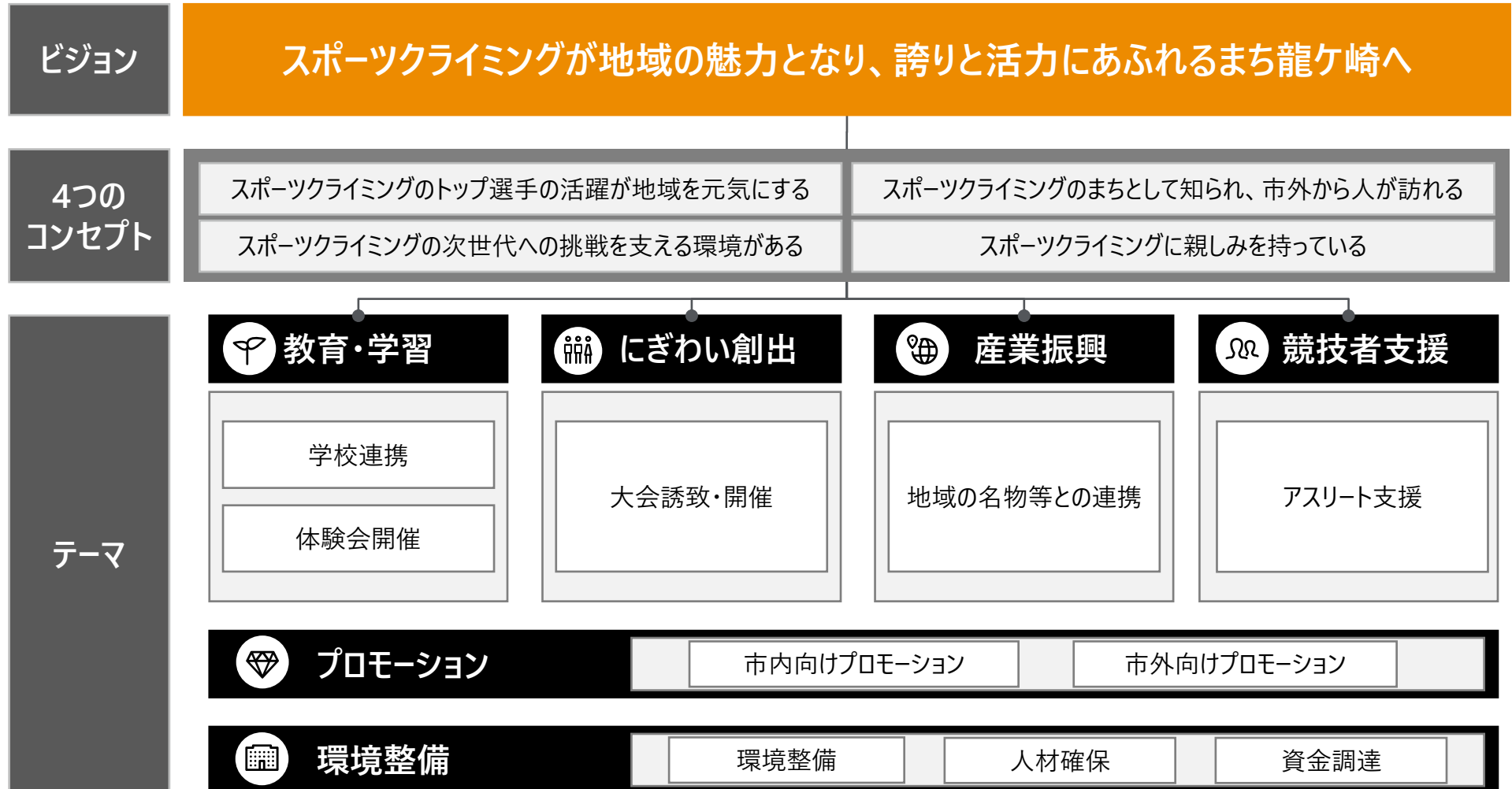
オリンピック、トップクライマーが身近に存在する恵まれた環境が本市にはあります。

そこで、“スポーツライミング”を一つのコンテンツとしてまちを活性化させ、若者を誘引することを目指します

実現に向け、令和6年度に「スポーツライミングのまち龍ヶ崎基本構想」を策定

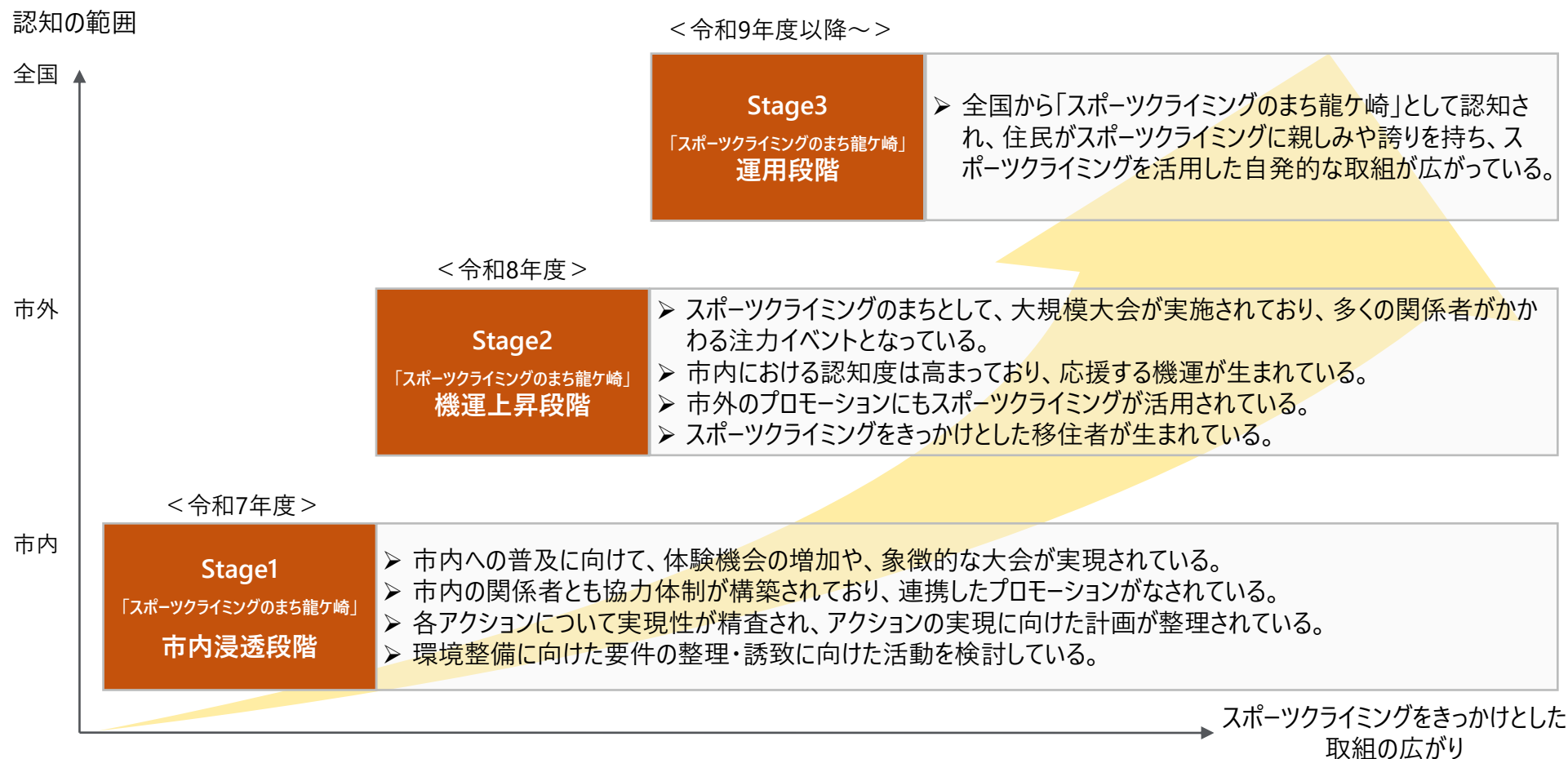
基本構想は、「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の実現に向けたビジョン、コンセプト、テーマに紐づくアクションで構成されています

基本構想の全体像



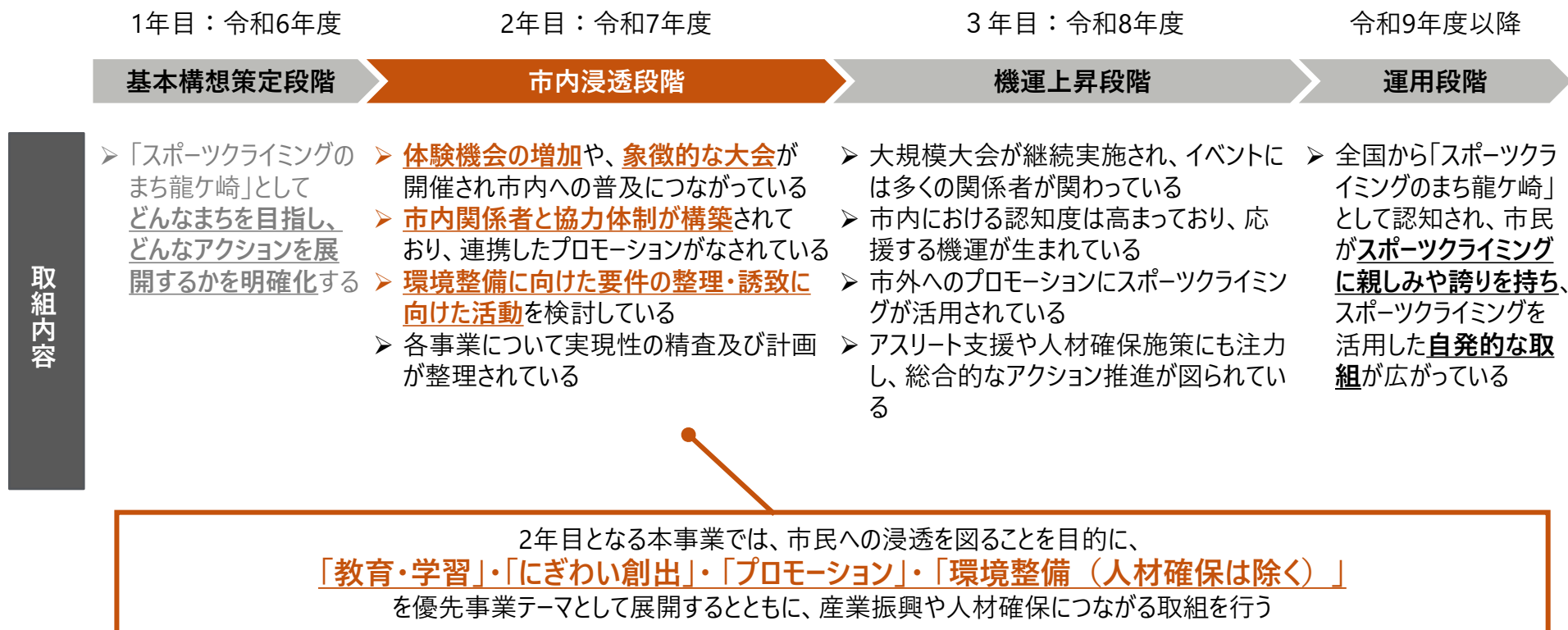
「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の実現は、スポーツライミングに親しむ環境の整備、選手等を応援する機運の醸成、大会等の開催による交流人口増加の3段階で取り組みます

「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」実現に向けた今後の展望



市内浸透段階である今年度では、「教育・学習」・「にぎわい創出」・「プロモーション」・「環境整備（人材確保は除く）」を優先事業テーマとして展開します

今年度事業の位置づけ



「スポーツライミングのまち龍ヶ崎」の実現に向けて必要な10のアクションについて、 今年度は「7 アスリート支援」以外の9アクションが取組対象です







アクションごとのロードマップ

テーマ	アクション	令和7年度	令和8年度	令和9年度以降
①教育・学習	1 学校連携	連携協議・調整 →実施計画の策定	一部連携	連携拡充
	2 体験会開催	企画・検討	体験会開催	体験会(開催数・年代の拡充)
②にぎわい創出	3 大会の誘致・開催	誘致	企画・開催	企画・開催
③産業振興	4 地域の名物等と連携		大会との連携	大会との連携
			制度・連携検討	連携・制度運用
④プロモーション	5 市内向けプロモーション	方針検討	コンテンツ作成・発信	
	6 市外向けプロモーション	方針検討	コンテンツ作成・発信	
⑤競技者支援	7 アスリート支援		方針検討	制度運用
⑥環境整備	8 スポーツライミング環境整備	施設・拠点方針検討	検討結果に応じて実施	
	9 人材確保		人材要件の検討・募集	採用
	10 資金調達	制度検討	制度運用	
			企業版ふるさと納税確保	

凡例： 検討・企画 実施

教育機関等と連携してスポーツライミングの体験・学びの機会を創出するとともに、意欲の高いこどもが練習できる環境づくりに取り組みます

アクション【1】学校連携

施策概要	教育機関等におけるスポーツライミングの体験・学習の機会を創出します。(授業導入・キャリア教育・ウォール設置・定期的な練習会等)
目的	スポーツライミングの普及促進を図るとともに、多様なスポーツ体験の機会を提供します。また、意欲の高いこどもの活動機会の確保に取り組みます。
関係者と役割	<ul style="list-style-type: none">・龍ヶ崎市 教育機関等との連携施策検討・調整・教育委員会・小中学校 年間を通じた体験・学習機会の設計及び体験場所の検討・スポーツライミング関係団体等 学校での体験会・練習会の実施、キャリア教育等の講師・指定管理者 たつのこアリーナでの体験会受入
令和7年度以降 取り組む内容	<ul style="list-style-type: none">・教育機関におけるスポーツライミング体験やキャリア教育の授業等への機会創出・スポーツライミング体験場所の確保に向けた検討(ハード設置/アリーナ訪問)・体験指導人材・キャリア教育人材の確保・定期的に練習が可能となる場所の検討・施設保有自治体や民間ジムとの連携検討
施策イメージ	
<ul style="list-style-type: none">■ 教育機関や就学前教育・保育施設等と連携し、こどもたちがスポーツライミングに触れることができる機会の創出を図ります。■ 意欲の高いこどもが定期的に練習できる環境を整備します。 <p><実施内容案></p> <p>教育機関等と①②の実現の可能性について検討し、目的の達成及びこどもの体力向上や健全な成長につながる仕組みや環境を設計します。</p> <p>① 授業・放課後等でのスポーツライミングの体験・学習機会の創出</p> <p>② 定期的に練習が可能な機会や制度(地域クラブ活動化)等の確立</p> <div><div><p>①スポーツライミング体験・学習 が可能な機会・場所の創出</p><div></div><p>体育の授業 での体験</p><p>校内での ウォール設置</p><p>キャリア教育 の授業</p></div><div><p>②定期的に練習可能な機会の創出</p><div></div><p>場所 の確保</p><p>実行体制 スキームの 検討</p><p>指導人員 の確保</p></div></div> <div><p>収益・コスト</p><p>・コスト：体験会開催費、指導者・キャリア教育講師等費</p></div>	

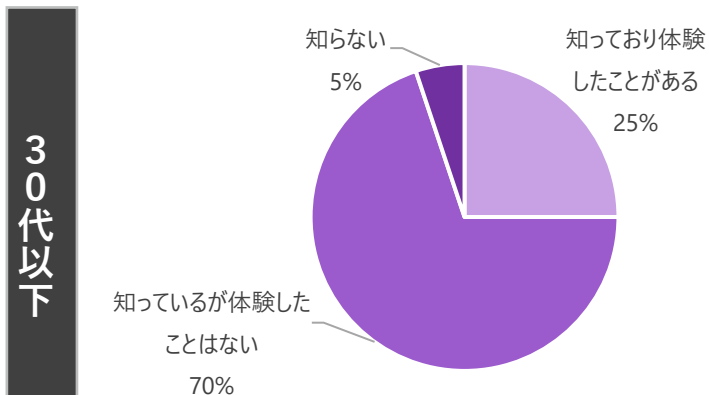
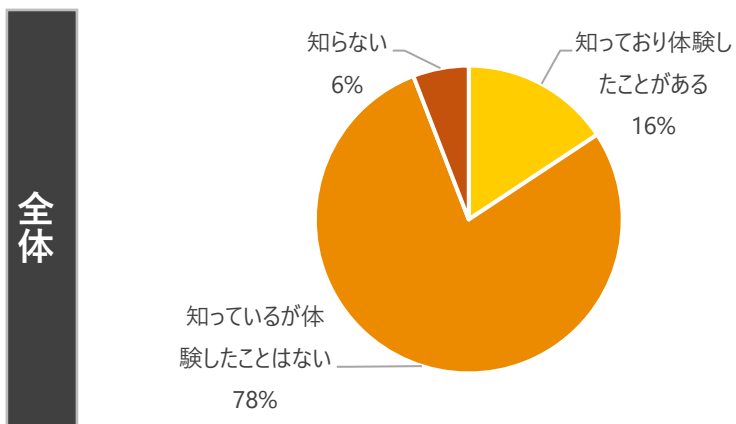
2.計画の導出に資する これまでの施策や調査の結果

昨年度に行った市民アンケートでは、スポーツクライミングの未経験者割合は7割以上となっており、定期的な体験者もまだまだ少ない状況でした

スポーツクライミングを知っていますか？体験は？

(n=1105)

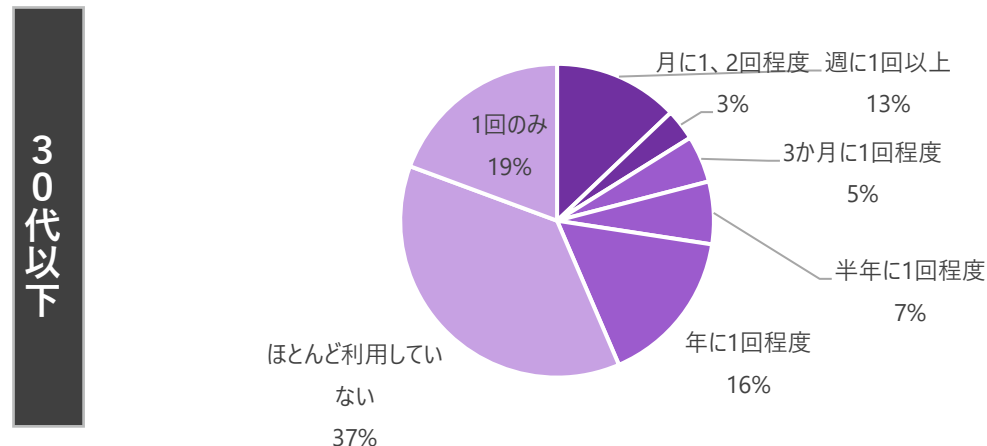
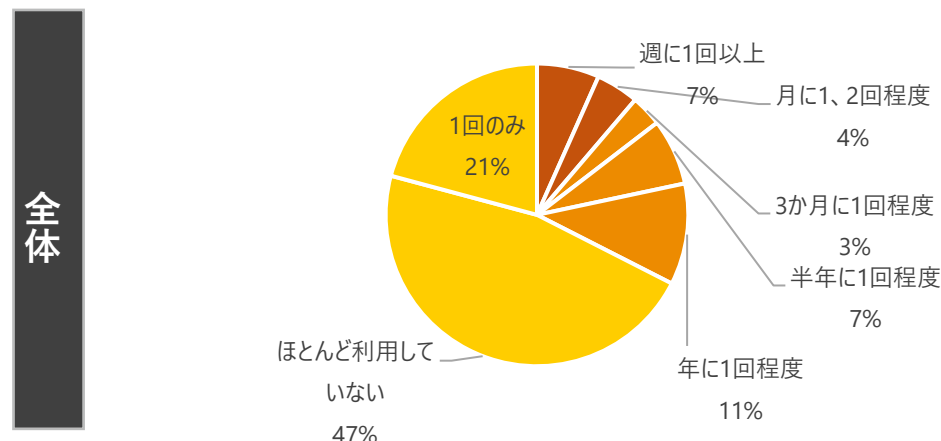
スポーツクライミングを「体験したことがない」を回答した人が7割以上だが、30代以下では体験したことがある割合が増加



体験の頻度はどのくらいですか？

(n=240)

全体的に月に1回以上体験している人は11%と低いが、30代以下になると体験頻度は上がり、年に1回以上体験をしている人が半数に迫る



そこで、今年度は11/8にて、野口啓代氏を始めトップクライマー3名による親子向け体験会を開催。保護者25名、児童28名の計25組53名にご参加いただきました

11/8実施報告

1.学校連携

2.体験会

3.大会開催

4.地域連携

5.市内PR

6.市外PR

8.環境整備

9.人材確保

10.資金調達

開催概要

- 野口啓代氏を始め、トップクライマー3名による2部構成の体験会と、アリーナウォールの無料開放を実施
- 大人の体験機会創出も兼ね、体験会の対象は親子30組とした

ゲストクライマーと一緒に新しいことに挑戦しよう！

親子でボルダリング体験

2025 11月8日(土)
10:00~11:00
11:30~12:30

会場 ニューライフアリーナ 2F 2-1
(霞ヶ崎市中央3-2-1)

対象 市内在住のボルダリング初心者の小学生と保護者(各15組)

参加申込 10月8日(水)午前8時から申込開始
料金は、下の二次元コードから

ゲストクライマー

野口 啓代さん
元ボルダリング日本代表、プロクライマー。ボルダリングの魅力を伝えるために、全国各地でワークショップやイベントを開催中。今回の体験会は、市内在住の小学生と保護者を対象に、ボルダリングの楽しさを伝えることを目的としている。

高田 雄太さん
1991～2001年、ボルダリング日本代表。現在は、ボルダリングの魅力を伝えるために、全国各地でワークショップやイベントを開催中。今回の体験会は、市内在住の小学生と保護者を対象に、ボルダリングの楽しさを伝えることを目的としている。

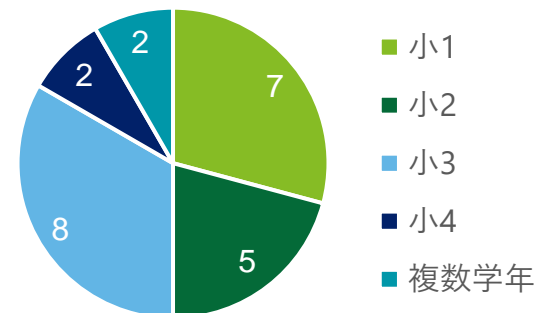
通谷 健さん
2002～2004年、ボルダリング日本代表。現在は、ボルダリングの魅力を伝えるために、全国各地でワークショップやイベントを開催中。今回の体験会は、市内在住の小学生と保護者を対象に、ボルダリングの楽しさを伝えることを目的としている。

実施報告

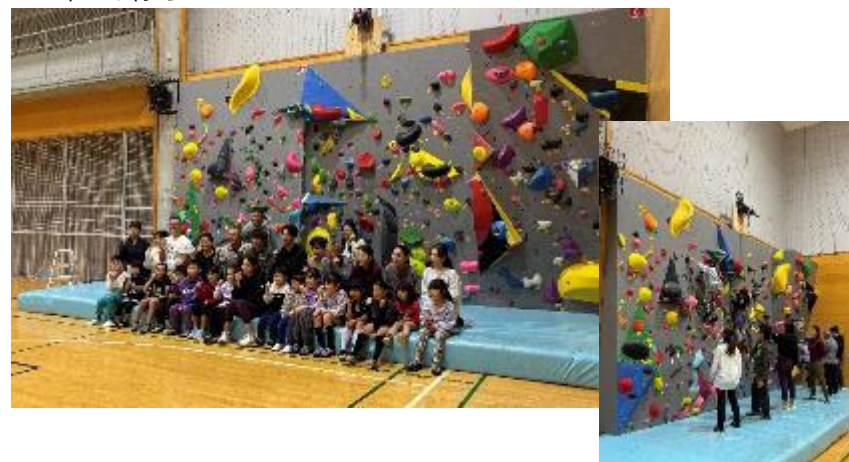
参加者

保護者： 25名

児童： 28名



当日の様子

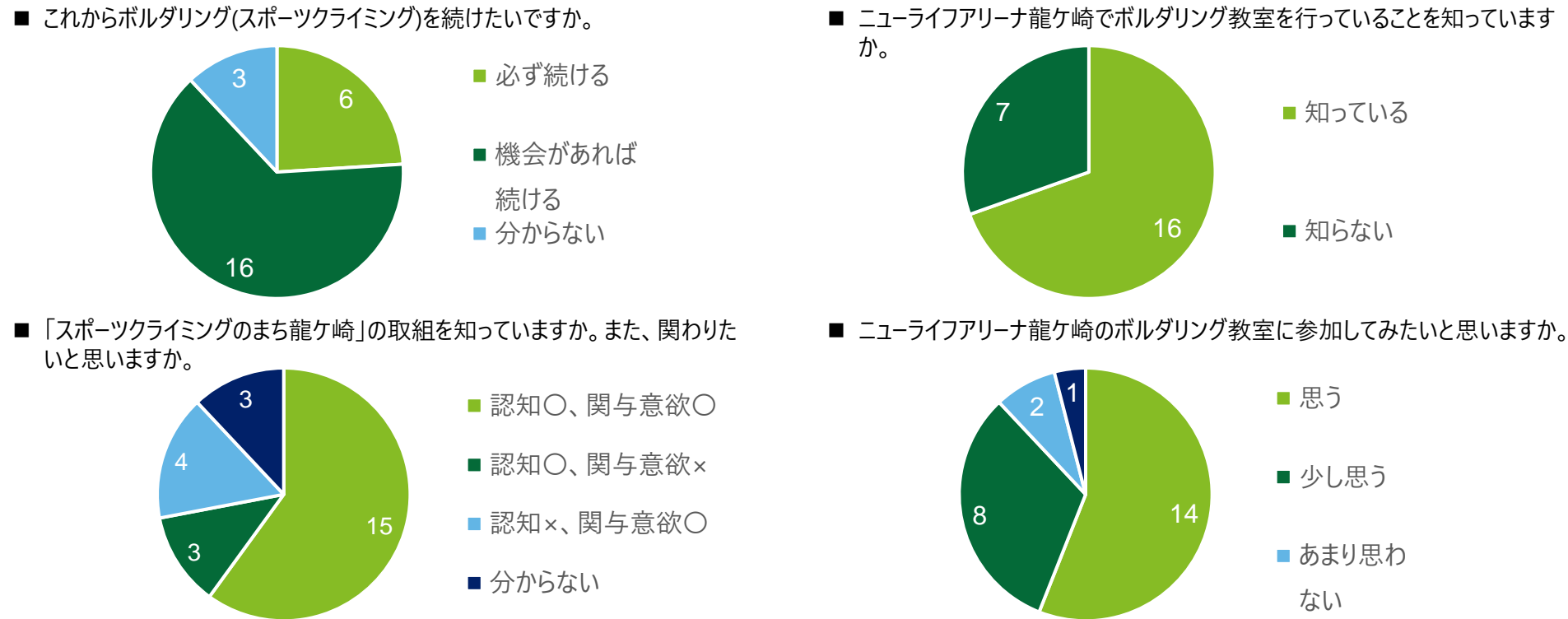


保護者への事後アンケートにて、参加者の8割以上がボルダリングを続けたいという回答がありました

11/8実施報告

1.学校連携	2.体験会	3.大会開催	4.地域連携	5.市内PR	6.市外PR	8.環境整備	9.人材確保	10.資金調達
--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---------

アンケート結果（参加保護者25名が回答）



さらに、鉾田市「とくしゅくの杜」のクライミング施設を見学し、学校教育との連携や施設運営に関するヒアリングを実施しました

鉾田市「とくしゅくの杜」視察まとめ

施設規模： 小 (競技に親しむ場所) 中 (競技者の練習場所) 大 (大規模大会の開催場所)

視察概要

日時 令和7年8月7日 14:00~

場所 茨城県鉾田市「とくしゅくの杜 スポーツクライミングセンター」

内容

- スポーツクライミングの学校教育との連携
- スポーツクライミングの民間組織の立ち上げ・連携
- とくしゅくの杜 施設運営



視察結果まとめ

学校連携

- 教育現場との関わり
 - 生涯学習課が担当課となっており、教育委員会教育部局であることから学校との調整、連携は比較的円滑である
 - 第74回国体の開催にあたって鉾田市が山岳競技の開催場所となり、市・教育委員会が一丸となって普及・啓発活動に取り組んだことからスポーツクライミングの取組が開始。岳連からの全面的な協力もあり、安全面において学校側の理解を得られた
- 市内小学校におけるウォールの設置・活用状況
 - 市内全小学校にウォールを設置済み。コロナ禍以前は休み時間・体育の授業にてサーキットトレーニングとして活用されたが、現在は市内1校でのクラブ活動(※)のみ
 - ※鉾田南小学校にて健康づくり財団の指導の下2か月に1回の頻度で実施。校長と健康づくり財団職員との繋がりから自発的に活動が開始し、現在は4~6年生20人程度が在籍
- 学校授業への活用
 - 山岳連盟・各小学校での日程調整の上、年1回・市内全小学校6年生を対象に本施設にて「小学生クライミング教室」を実施。スポーツクライミングが学習指導要領にないため、各校にて体育授業や学校行事に割り当てている
 - クラス単位で公用バスで移動し、2時間授業の中でボルダー・リード競技を体験。スタッフは山岳連盟 (3~4名)・健康づくり財団 (1名)・市職員 (4名)

民間組織の立上・運営

- 立上げについて、競技の普及促進を目的に、鉾田市生涯学習館（ハード施設）の開館に併せて「鉾田市スポーツクライミングクラブ」を発足。学連メンバーが指導し、会員は60名（うち、こども20名）、部費は2000円程度/月
- 市との連携について、練習日の施設優先予約、施設利用料の減免がある

施設運営

- 施設の運営経費について、歳出の7割以上を占める委託費は、主にシルバー人材への夜間の施設管理の委託（一般的な事務作業のみ）
- セットの入れ替えについて、大会やイベントを頻度高く開催することで、委託業務においてセットを変えられるように工夫（年4回程度）。ホールドの取り外し・洗浄は直営であり、市職員の業務作業量として占める割合は大きい

また、港区立小中学校のクライミングウォールを見学し、導入経緯や活用状況に関するヒアリングを実施しました

港区立小中学校視察まとめ

施設規模： **小** (競技に親しむ場所) **中** (競技者の練習場所) **大** (大規模大会の開催場所)

視察概要

- 日時** 令和7年10月24日 15:00~
- 場所** 東京都港区立高松中学校・高輪台小学校
- 内容**
- ・ 導入経緯
 - ・ 活用状況 (学校内外)
 - ・ 導入後の効果・所感

高松中学校



高輪台小学校



視察サマリ

導入経緯

- ・ 教育委員会として生徒の体力・運動能力向上を目指す中、特に握力の数値が全国平均を下回ってる課題の対応策として、区内全小学校にボルダリングウォールを設置
→他中学校に先行して、左記中学校にも導入

活用状況

- 学校での活用
【ソフト面】
 - ・ 活用場面は体育授業のみ
 - ・ 実施頻度はクラスごとに2回程度／年
 - ・ 実施内容は教員が生徒にルールや登り方を指導。ウォール各面の安全管理のため、指導員含め2名必要
 - ・ 教員はルールや登り方の指導の他、ハーネスの付け方を学ぶ【ハード面】
 - ・ 設置後からルートは変更なし
 - ・ 維持管理等のチェックは教育委員会にて実施
- 地域・課外での活用
 - ・ 地域団体、区NPO法人にて不定期にボルダリング教室が開催されており、都度場所を貸している

導入後の効果・所感

- ・ 男女問わず積極的に上る子が多かった
- ・ 小学校への導入後だが、教室に握力計を設置しており、計測値が上がったデータあり

示唆

- ・ 授業外での利用に関するルール／児童生徒がチャレンジしたくなる工夫がないと、単発の体験に終わってしまう
- ・ 学校側での安全管理として教員に対する指導者講習の受講が必要となるが、教員の異動リスクも鑑み、受講方法等をマニュアルとしてコンテンツ化するとい

肋木クライミングウォールを市内3校に設置しており、児童たちは興味を持って利用しておりますが、継続的に利用するための仕掛けが求められています

肋木ウォール導入校における児童の反応

背景

9月に、市内3小学校（八原小、馴馬台小、川原代小）へ肋木クライミングウォールを設置。各校が授業などで体験を促進
→今後の学校連携施策を考える上でも、3校での児童の反応などを把握する必要があり、3校の教員に向けて、ヒアリングを実施



ヒアリング結果

現在の活用状況に関して

【目的】

- 実際に体験した児童の反応・興味度合を把握する
- 実際に利用中での現場課題を把握する

- ✓ 2校にて、体育の授業での体験
 - 前のめりに体験する児童も多数いた一方で、1名ずつしか登れないため、授業というより体験の位置づけ
 - 色縛りを設けたり、待っている児童が次に掴むホールドを指定する形式を採ったり、先生側で登り方を工夫
- ✓ 2校にて、休み時間に開放して利用（先生1名が見張り）
 - 設置当初から興味を持つ児童が多く、1日最低5名程度は体験。中でも、中学年世代に最も人気

今後の活用に関して

【目的】

- 今後、市内の全子どもが体験する状態を作るためには、**どのような工夫をして事業を進めていけると良いか**の考えに至る現場の声を把握する

- ✓ 体育の授業においては、サーキットトレーニングへの導入などを想定。単独での体験授業は数回程度になる想定
 - **休み時間に自主的に児童が体験してくれるために、参考課題**があると良い
- ✓ 先生側としても、より楽しく・安全に登れる方法を知らない点があるため、**先生向けの指導や先生同士のノウハウ交換は必要**
- ✓ クラブ活動等での利用も考えられるが、普及させるためには外部の指導者による指導の機会が効果的

今後の更なる利用促進に向けて
先生・児童それぞれに対する登り方マニュアルの共有が求められる

11/23産業祭にて特設ウォールを設置し、体験会を開催しました。約300名が体験し、小学生の他、未就学児や高校生、保護者など幅広い層が利用しました

11/23実施報告

1.学校連携

2.体験会

3.大会開催

4.地域連携

5.市内PR

6.市外PR

8.環境整備

9.人材確保

10.資金調達

開催概要

- 産業祭の1区画に特設ウォールを設置し、体験会を実施。
現役流経大生のスポーツクライミング経験者2名をはじめ、市職員らにて運営し、約300名が体験

<開催日時>

- ✓ 11/23 10-15時

<開催場所>

- ✓ 龍ヶ崎市役所南駐車場

<運営人数>

- ✓ 9名
 - ✓ 龍ヶ崎市 6名
 - ✓ 流経大 2名
 - ✓ DTC 1名

実施報告

- 参加者

約**300**名

※集計方法

- 10~14時にて目視で集計（234名）
- 1時間当たりの参加者を計算し10~15時での参加人数を算出

- 当日の様子



3歳頃から大人までが楽しめる、幅広く難度が設計された計8課題があり、主にこどもを中心に好感触だった一方で
設営・撤去については一定のスキルや人数・作業時間が必要となるため、高頻度の巡回は難しい

3. 将来的な目指す姿の達成に向けた 進め方

龍ヶ崎市では、若年層に対してスポーツクライミングを普及させることを最優先に据えつつ、興味喚起から育成まで可能な状態を目指していきます

実施目的と理想像

実施目的

以下の優先度で、施策の実現を目指す

①市内におけるスポーツクライミングの普及

次世代に対してスポーツクライミングの魅力を伝えることで、若者に対して求心力のあるスポーツクライミングを市内に浸透させる

②市内からのハイレベル競技者の輩出

興味喚起から競技力養成まで実現できる仕組みを整え、国内で“スポーツクライミングのまち”として差別化させ、確立させる

現在の状態

- ✓ 市内では、3つの小学校に肋木クライミングウォールが設置されている他、競技として初心者が練習できる場所も存在（たつのこアリーナ）しており、興味を持った子が体験できる機会は整い始めている
→一方で、幅広い層の市内の全子どもが自然と体験できる環境や機会、仕組みがない
- ✓ ニューライフアリーナ龍ヶ崎にてボルダリング教室を開催しており、気軽に（1回1,000円程度）参加できる
→一方で、競技者を目指し中学生が積極的・継続的に参加したくなる受け皿としては機能していない（難度・位置づけ等）

理想像

- ✓ 龍ヶ崎市に住む全こどもの身近にスポーツクライミングができる環境があり、実際に体験する機会を有している
- ✓ スポーツクライミングの競技力をより高めた子どもが、気軽に・定期的に練習できる制度や環境が整っている

施策方向性①
体験・学習機会の創出

施策方向性②
定期的に練習が可能な機会や制度等の確立

施策方向性①

体験・学習機会の創出

体験・学習機会を創出するためには、ハードの調整を伴った体育の授業への導入を主として、関心度合に合わせたソフト事業の展開も求められます

体験・学習機会の創出

理想像

龍ヶ崎市に住む全こどもの身近にスポーツライミングができる環境があり、実際に体験する機会を有している

理想像実現に向けたハード・ソフトの関係図

【ソフト】

“する”ことに興味を持った子が、継続的にスポーツライミングに触れたい／触れられる仕組み
＝授業外での利用に関するマニュアルの展開・指導体制の充実化

【ソフト】

“する”ことに興味がない子でもスポーツライミングに愛着が湧く機会
＝道徳教材や美術ワークショップの企画／提供

【ソフト】

全こどもがスポーツライミングに触れることができる機会
＝市内全校における体育の授業での導入

【ハード】

全こどもたちの身近にスポーツライミングができる環境

難度低

一部学校への
小規模ウォール
(肋木ウォール) 設置

市内全校への
移動式ウォールの
巡回

市内全校への
小規模ウォール設置
※港区イメージ

市内学校への
大規模ウォール設置
※多久高校イメージ

難度高

理想像実現のためには、ソフト事業によってスポーツクライミングを継続して取り組むこどもを増やした後に、ハード整備に本格着手するか検討する流れが望ましいと考えています

実現に向けた今後のステップ

銚田市ヒアリング結果

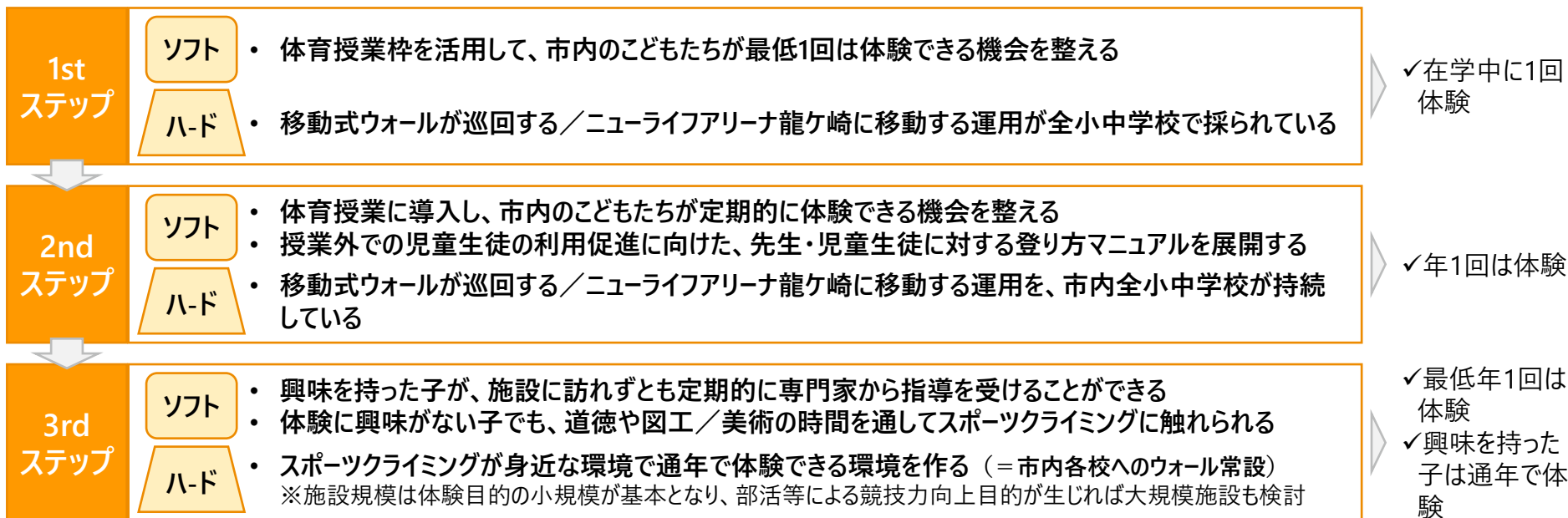
- ✓ 施設として充実した地域のクライミングウォールにて、専門家が指導する体育の特別授業では満足度が高い
- ✓ 一方で、児童生徒の身近な環境では体験できないため、1回の体験で興味を持った子の興味が伸長できない

港区ヒアリング結果

- ✓ 学校に競技環境が整っているため、年数回ではあるもの、毎年体育の授業で体験ができる
- ✓ 一方で、授業外での利用に関するルールがないと、継続的な体験につながらず、定着し切らない

市内3校へのヒアリング結果

- ✓ 肋木ウォール設置当初や授業等での初回の体験機会では、児童たちが興味深く取り組んでいる
- ✓ 難度が高くないため、児童がチャレンジしたくなる工夫（課題・指導者）がないと、利用者が減っていく恐れがある



現在市内に存在するリソースの他に、より簡単に移動しやすいウォールを導入することで、市内小中学校が体験機会を確保しやすくなると考えております

ハード施策）市内に存在している／求められる設備



各設備を体育の授業に活用することを想定し、「1壁へ同時に登れる人数」、「1回登る所要時間」、「可能体験時間」から、各設備での1授業あたりの延べ体験人数を試算しています

各設備での延べ体験人数シミュレーション

ニューライフアリーナ龍ヶ崎	肋木ウォール	移動式ウォール（大）	移動式ウォール（小）
同時に3人体験可能	同時に1名体験可能	同時に3名体験可能 ※各壁に1名監督者が必要	同時に2名程度が体験可能
×	×	×	×
1回体験あたり1分	1回体験あたり45秒	1回体験あたり1分	1回体験あたり1分
×	×	×	×
1訪問あたり→1時間程度 ※各校の移動時間や確保する授業コマ数等で変動あり	1授業あたり→小学校：35分 ※準備運動、注意点の共有などで別途10分	1授業あたり→小学校：35分、中学校40分 ※準備運動、注意点の共有などで別途10分	
↓	↓	↓	↓
1授業（1訪問）あたり 延べ180名程度が体験可能	1授業あたり 延べ約45名が体験可能	1授業あたり 延べ約105～120名が体験可能	1授業あたり 延べ約70～80名が体験可能

市内小学校の児童数、クラス数、1クラスあたりの児童数は以下の通りです

市内小学校の児童生徒数

※2025年9月時点

学校名	学年別児童生徒数（上欄特別支援学級児童数 ・下欄普通学級児童数及び学級数）						1クラスあたりの生徒数		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	低学年	中学年	高学年
龍ヶ崎小	2	7	4	9	3	12	30-34名	22-28名	26-28名
	68 (2)	59 (2)	55 (2)	45 (2)	55 (2)	52 (2)			
八原小	6	3	7	11	12	6	27-28名	30-32名	27-31名
	82 (3)	111 (4)	96 (3)	121 (4)	93 (3)	109 (4)			
馴染小	3	5	4	7	7	8	27-33名	24-25名	26-34名
	66 (2)	83 (3)	75 (3)	72 (3)	67 (2)	78 (3)			
川原代小	0	1	0	2	1	1	9-19名	12-15名	10-11名
	9 (1)	19 (1)	12 (1)	15 (1)	10 (1)	11 (1)			
龍ヶ崎西小	1	2	1	2	7	1	22-26名	18-30名	19-29名
	22 (1)	26 (1)	30 (1)	37 (2)	29 (1)	39 (2)			
松葉小	0	0	0	2	5	3	23-24名	9-22名	20-22名
	23 (1)	24 (1)	22 (1)	9 (1)	22 (1)	20 (1)			
長山小	2	2	7	6	11	4	28-34名	28-30名	20-21名
	28 (1)	34 (1)	28 (1)	30 (1)	41 (2)	41 (2)			
馴染台小	2	2	2	4	4	1	22-32名	18-20名	20-35名
	22 (1)	32 (1)	37 (2)	39 (2)	35 (1)	41 (2)			
久保台小	2	2	5	4	9	4	21-32名	18-22名	22-26名
	32 (1)	43 (2)	43 (2)	37 (2)	51 (2)	45 (2)			
城ノ内小	3	5	1	6	3	4	30-33名	24-30名	24-35名
	65 (2)	60 (2)	60 (2)	70 (3)	72 (3)	69 (2)			

各設備での1授業あたりの延べ体験人数と各校の児童数・クラス数から、各校で体育の授業へ導入する場合に、最適な設備を評価いたしました

各設備×各校の適正度合（体育の授業1回）

	ニューライフアリーナ龍ヶ崎	肋木ウォール	移動式ウォール（大）	移動式ウォール（小）
	1訪問（2～3コマ）あたり延べ180名程度が体験可能	1授業あたり延べ約45名が体験可能	1授業あたり延べ約105～120名が体験可能 ※3名の監督者要	1授業あたり延べ約70～80名が体験可能
龍ヶ崎小	（○）バス移動に適した学年児童数	（×）1クラスあたりの児童数が多く、体験回数少	（△）2クラス合同での開催が見込まれ、体験回数少	（◎）1クラスによる授業で1学生あたり複数回体験可能
八原小	今後、各校における評価を実施 （中学校も同様）			
馴柴小				
川原代小				
龍ヶ崎西小				
松葉小				
長山小				
馴馬台小				
久保台小				
城ノ内小				

シミュレーションも基にしつつ、まずは2026年度、 開催を希望する対象校に対して体験会を開催いたします

ソフト施策）2026年度に開催する学校体験会の概要

体験会開催概要

希望する学校の授業約2コマ分を借り、初心者向けの体験会を開催

目的

- ✓ 市内のこどもにスポーツクライミングの魅力を認識してもらい、体験／応援意欲を促進する
- ✓ 実用性の伴った目指す姿を実現するために、こどもたちのニーズを把握する

参加者

- <対象者>
 - ✓ 対象校における1学年～全学年
- <指導者>
 - ✓ たつのこアリーナ職員 or 外部クライマー

実施時期

各校と調整

対象校

2026年度時点で開催を希望する小中学校

実施手法

学校側の意見も伺い、以下パターンのうち実現できる手法で準備・開催

実現パターン①：たつのこアリーナに移動して、体験会開催



施設へ
バス移動

- ✓ 移動・体験共に指導側で人材を用意
- ✓ 先生は付き添い



メリット／デメリット

- (+) 同時に登れる人数がより多い
- (+) 1～2回体験したことがある児童生徒でも十分に楽しむことができる
- (-) 児童生徒誘導にあたる人的コストと、バス移動による金銭的成本が発生する。当該コストが対象クラス分発生する
- (-) 移動時間込みとなるため、2～3コマ分の授業時間を確保する必要がある

実現パターン②：学校へウォールを持ち込み、体験会開催



置き場所へ
移動

- ✓ 指導員が学校訪問
- ✓ 対象クラスが体験する間はウォール据え置き

メリット／デメリット

- (+) 目指す姿に近い環境で体験会を開催でき、今後発生しうる課題を把握しやすい
- (+) 児童生徒移動に係る人的・金銭的成本がない／先生の負担も少ない
- (-) 特設ウォールを一定期間据え置きできるスペースが必要になる
- (-) 体験会以外の時間での利用ルールを定める必要がある
- (-) ウォール設置の人員・期間が要る

継続的な体験を促進するため、より積極的に児童生徒が利用するためのマニュアルや安全管理の質を向上・均質化するための指導マニュアル作成も求められます

ソフト施策）児童生徒用・先生用マニュアルの概要

学生用マニュアル	
作成目的	✓ 授業での体験を通してスポーツクライミングに興味を持った子が、休み時間などでの継続的なウォールを利用することを促す
内容	✓ 肋木ウォールや移動式ウォールにおいて、複数の課題（ルート）とその課題の登り方が難易度別に記載 ※なわとび検定表をイメージ

先生用マニュアル	
作成目的	✓ 担当教員のスポーツクライミング経験の有無に問わず、授業内外の指導において、より安全に・より児童生徒が前向きに取り組める状態を作れるようにする
内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 児童生徒が安全に登るために必要な以下のような情報を掲載 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前準備における注意点（マットの置き方等） ・ 安全な登り方／降り方に関する指導方法 ・ 授業時の安全な運用方法・オペレーション ・ 使用前後の安全性に関するチェックポイント 等 ✓ 児童生徒が前向きに楽しく登るために必要な以下のような情報を掲載 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒が楽しめるためのノウハウ／プログラム案 ・ 上手に登るためのコツ・体の使い方 ・ 適切なトレーニング方法 等

港区立高松中学校でも、色で難易度を分けており、生徒は自分のレベルに合わせて登っている



施策方向性②

定期的に練習が可能な機会や制度等の確立

市としては、市内学校の体育授業にスポーツクライミング体験がある状態と 地域クラブが持続的に存在する状態を理想と捉え、実現手法を模索したいと考えています

定期的に練習が可能な機会や制度等の確立

理想像

スポーツクライミングの競技力をより高めたいこともが、気軽に・定期的に練習できる制度や環境が整っている

特に不足している競技環境の整備は前提となりつつ
制度設計やヒト・カネの設計が必要

理想像実現を支える状態像

【ヒト：指導体制】

✓ 安全管理に関する知見を有しながら
AKIYO's DREAM with RYUGASAKIに出場する
ような選手を指導・育成できる人材が継続的
に存在している

持続性を
担保

【カネ：活動財源】

✓ 市内の子どもたちからは、継続的に参加が
可能な費用を徴収するのみで
活動を継続することができる

【情報：制度（情報共有）】

✓ 市内の子どもたちが、身近にスポーツクライミングを練習できる環境（施設・団体）があることが知れ、参加できる

【モノ：競技施設】

✓ 中学生の体格であっても、満足に練習ができ、自らの競技力を伸ばせる
✓ 市内の子どもたちが放課後や土日に、定期的に通うことができる

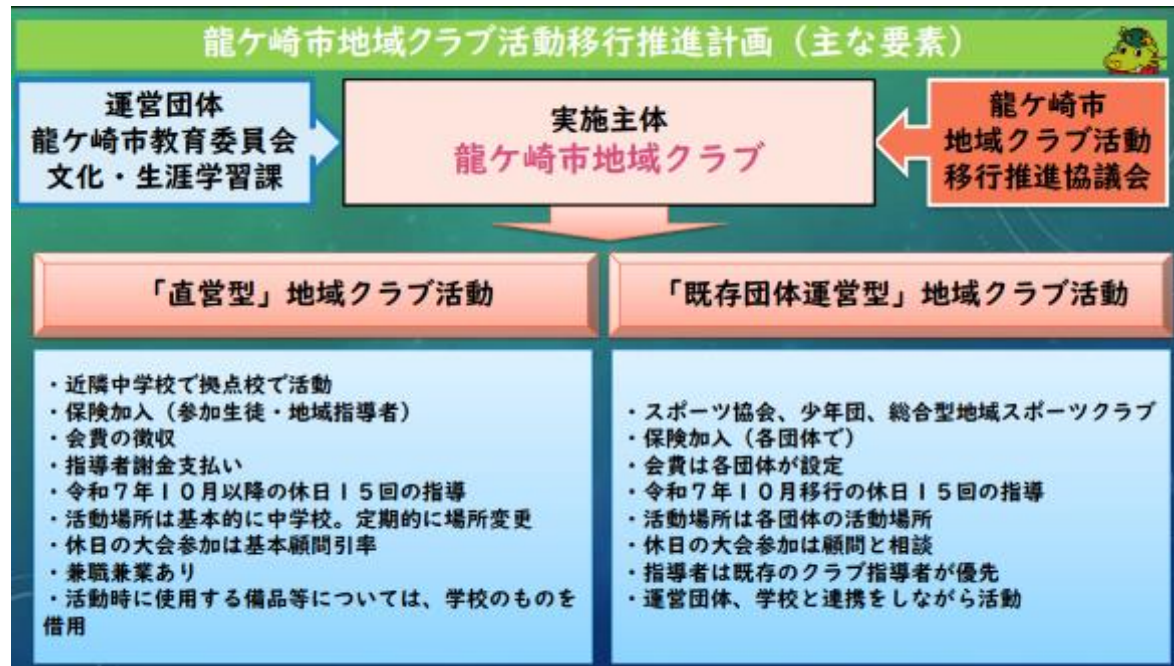
↑
継続要件
↓

↑
開始要件
↓

龍ヶ崎市内でスポーツライミングの活動団体を組成する場合、活動の自由度等を鑑みて地域の民間団体による活動として認定する方向性が望ましいです

定期的な練習機会の在り方

龍ヶ崎市地域クラブ



バスケ、卓球、柔道など

サッカー、野球、陸上など

- ✓ 教育委員会で定める部活動の運営方針に準拠した活動内容を設計する必要あり（活動時間、体制、禁止事項等）
- ✓ 加盟している地域クラブは、中体連の登録を想定 ※スポーツライミングは中体連無し
- ✓ 地域クラブの1つとして、新入生を始め児童生徒に対する活動紹介はあり

活動の自由度を鑑みて
目指すべき位置づけ

地域で活動している少年団や
民間スクール事業

龍ヶ崎水泳

龍ヶ崎柔道

龍ヶ崎剣道・城南支部

龍ヶ崎空手

龍ヶ崎合気道

等

※参考：龍ヶ崎市スポーツ少年団新入団員募集！

- ✓ 民間団体が定めた活動内容を了承した人が練習や大会に参加
- ✓ 地域に存在する学外活動の受け皿として、新入生に対する活動紹介あり

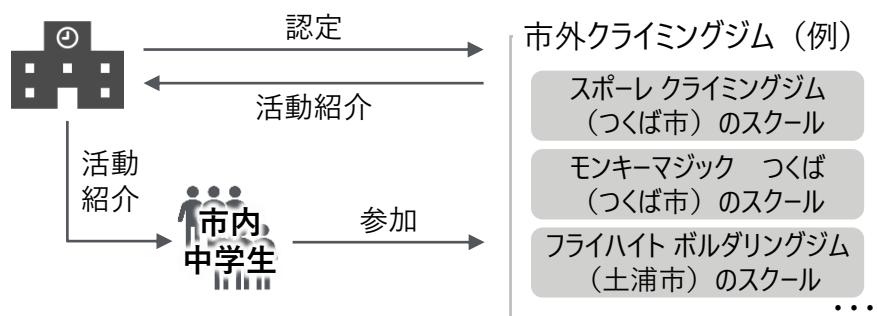
中学生が満足に練習できる施設がない市の現状を踏まえると、市外ジムとの連携か、新施設を整備した上での競技団体設立によって活動母体を用意する必要があります

地域の民間団体による活動として認定されるための手法

市内の現状

- ✓ ニューライフアリーナ龍ヶ崎でボルダリング教室を開催しているものの、壁の難易度が高くないため、小学生が大半を占めている
- ✓ 上記の教室を通して上手くなった小中学生たちは、市外のスポーツクライミングジムを個人的に利用している
- ✓ AKIYO's DREAM with RYUGASAKIには、市民 9 名が参加した

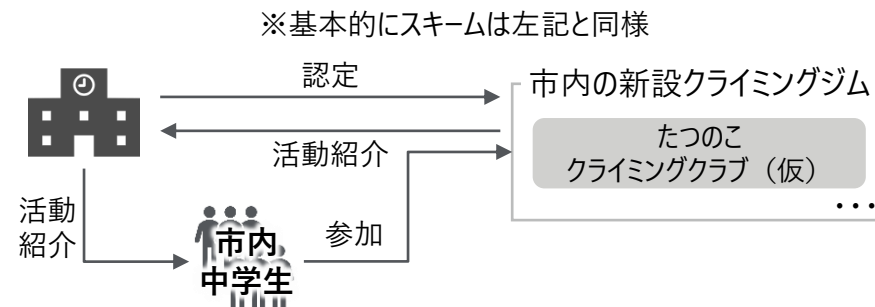
①市外のクライミングジムの学校を認定



課題

- ✓ 練習環境が周辺にあることを示しているのみで、定期的な練習環境として享受できる層が限られる
→一定レベル以上に達した競技者に対する助成等は財源の確保次第で検討可能性あり
- ✓ 過去の類似実績がないため、各所への説明及び合意取得が必要な可能性あり

②市内で、今後新たに組成された地域活動を認定



課題

- ✓ 中学生が満足に練習できるレベルの施設を、市内に設立する必要がある（民間ジムの誘致含む）

市内への中規模施設の整備（官民間問わず）を目指しつつ
市外クライミングジムが行う学校の認定を目指す

XXX

中規模施設の機能要件

施設整備アクションにて整理予定
(収支シミュレーションも含め)

今後の進め方

